

## 鹿児島県大隅半島の久保田川から得られた ルリヨシノボリ *Rhinogobius mizunoi* の記録

高田喜光・北尾圭梧・井戸啓太

〒 606-8224 京都府京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院理学研究科

### はじめに

2025年8月26日に鹿児島県肝属郡肝付町の久保田川から、1個体のルリヨシノボリ *Rhinogobius mizunoi* Suzuki, Shibukawa and Aizawa, 2017 が採集された。鹿児島県は本種の分布南限域に位置しており、大隅半島における本種の分布は、これまで本城川から雄川の鹿児島湾に面する河川および志布志湾に面する河川に限られていた（鹿児島島の自然を記録する会, 2002）。本標本は大隅半島南部における新たな分布記録となるため、ここに報告する。

### 材料と方法

標本の計数、計測および雌雄の判別は明仁親王ほか（1984）および Suzuki et al. (2017) にしたがった。体各部の計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行なった。標本の作製、撮影、固定方法は本村（2009）に準拠した。標準体長（standard length）は SL と表記した。本報告で用いた標本は京都大学総合博物館（FAKU）に登録・所蔵されている。

***Rhinogobius mizunoi*** Suzuki, Shibukawa and Aizawa, 2017

**ルリヨシノボリ** (Figs. 1–2; Table 1)

**標本** FAKU 212590, 1 個体, 雌, 62.4 mm SL, 鹿児島県肝属郡肝付町久保田川, 水深 0.2 m, たも網, 2025 年 8 月 26 日, 高田喜光。

**同定** 計数形質と体各部の計測値における SL に対する割合を Table 1 に示した。調査標本は、第 2 背鰭が 1 棘 8 軟条であること、胸鰭が 19 軟条であること、腹鰭第 5 軟条が最初に 4 分枝すること、背鰭前方鱗数が 14 であること、縦列鱗数が 33 であること、横列鱗数が 8 であること、生鮮時に頬に多数の青色斑があること、尾鰭基底に上下一対の暗色横斑をもつこと、および尾鰭軟条は暗色で点列がないことなどの特徴が明仁ほか（2013）と Suzuki et al. (2017) によって示されたルリヨシノボリ *Rhinogobius mizunoi* の特徴とよく一致したため本種に同定された。

**分布** 北海道の積丹半島から渡島半島、青森県から鹿児島県の日本海・東シナ海側、太平洋側、瀬戸内海流入河川、および韓国済州島から記録されている（上原, 1984；平嶋, 2018；宮城県環境生活部自然保護課, 2024；小熊・木村 2024）。鹿児島県内では出水地方の米ノ津川と高尾野川、薩摩半島の甲突川、鹿児島市喜入中名町の小河川、および大隅半島の鹿児島湾に流入する本城川から雄川にかけての河川と志布志湾に流入する安楽川、前川から記録されている（鹿児島島の自然を記録する会, 2002；松沼・本村, 2013；米沢・四宮, 2016；赤池ほか, 2020）。本報告により新たに大隅半島の久保田川からも本種が記録された。

**備考** 調査標本が得られた地点は、河口から約 3 km 上流の、川幅約 20 m, 底質が大礫からなる瀬であった。同地点では、ルリヨシノボリのほかにカワムツ *Nipponocypris temminckii* (Temminck

Takada, Y, K. Kitao and K. Ido. 2026. Record of *Rhinogobius mizunoi* from the Kubota-gawa river, Osumi Peninsula, Kagoshima Prefecture, Japan. *Nature of Kagoshima* 52: 207–209.

✉ YT: Graduate School of Science, Kyoto University, Kitashirakawa-Oiwakecho, Sakyo-ku, Kyoto 606–8502, Japan (e-mail: mytakada0416@gmail.com).

Received: 9 March 2026; published online: 14 March 2026; [https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK\\_052/052-052.pdf](https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_052/052-052.pdf)

and Schlegel, 1846), アユ *Plecoglossus altivelis altivelis* (Temminck and Schlegel, 1846), ボウズハゼ *Sicyopterus japonicus* (Tanaka, 1909), クロヨシノボリ *Rhinogobius brunneus* (Temminck and Schlegel, 1845), シマヨシノボリ *Rhinogobius nagoyae* Jordan and Seale, 1906

Table 1. Counts and morphometric measurements of *Rhinogobius mizunoi* (FAKU 212590) collected from Kubota-gawa river, Osumi Peninsula, Kagoshima Prefecture.

Standard length (SL, mm)	62.4
Counts	
Dorsal-fin rays	VI-I, 8
Anal-fin rays	I, 8
Pelvic-fin rays	I, 5
Pectoral-fin rays	19
Branched caudal fin rays	15
Predorsal scales	33
Transverse scale series	14
Longitudinal scale series	8
Measurements % in SL	
Head length (HL)	26.1
Predorsal length	38.8
Snout to 2nd dorsal origin	57.4
Snout to anus	59.1
Snout to anal fin origin	63.4
Prepelvic length	23.9
Caudal peduncle length	24.3
Caudal peduncle depth	13.6
1st dorsal fin base	17
Length of longest D1 spine	12.9
2nd dorsal fin base	14.5
Length of last D2 ray	10.9
Anal fin base	13.1
Caudal fin length	21.5
Pectoral fin length	22.8
Pelvic fin length	14
Body depth of pelvic fin origin	15.9
Body depth of anal fin origin	17.1
Body width of anal fin origin	12.2
Pelvic fin origin to anus	35.4
% in HL	
Snout length	34.2
Eye diameter	21.8
Postorbital length	47.8
Cheek depth	25.6
Head width in upper gill opening	55.8
Head width in maximum	75.2
Head depth in maximum	58.1
Bony interorbital width	14.8
Lower jaw length	34.7
% in caudal peduncle length	
Caudal peduncle depth	56

D1: First dorsal fin; D2: Second Dorsal fin.

が確認された。

標本の採集時に行なった潜水による目視観察では、調査標本のほかに1個体のルリヨシノボリが確認された (Fig. 2)。当該個体は、胸鰭が20軟条であること、頬に多数の青色斑があること、尾鰭基底に上下一対の暗色横斑をもつこと、および尾鰭軟条は暗色で点列がないことから本種に同定された。調査地点で確認されたルリヨシノボリは調査標本、潜水観察の個体を含めて2個体のみであり、確認個体数は少なかった。一方で、最も多く見られたのはシマヨシノボリで、次いでクロヨシノボリが多く見られた。

鹿児島県内におけるルリヨシノボリの生息地は飛び地状に分布しており、分布の項に示した通り、これまでに薩摩半島西部、鹿児島湾流入河川、大隅半島の志布志湾流入河川から記録されているが (鹿児島県の自然を記録する会, 2002; 松沼・本村, 2013; 赤池ほか, 2020), 薩摩半島および大隅半島の外洋に直接面する河川では生息が確認されていなかった。また、一部の生息地では生息密度が低いことが報告されており (米沢, 2003), 本種は鹿児島県レッドデータブックにおいて準絶滅危惧種に選定されている (米沢・四宮, 2016)。本報告は、日本列島に広く分布する本種の分布南限域における分布状況の一例を示すものであり、海洋を介した分散を伴う両側回遊型の生活史をもつ本種が、分布周縁域においてどのような出現パターンを示し、同属他種とどのように共存しているのかを理解する上で、今後さらなる分布情報の蓄積が望まれる。

## 謝 辞

本報告を取りまとめるにあたり、京都大学大学院理学研究科の渡辺勝敏教授には標本の作製、撮影にご協力いただいた。京都大学農学部藤井琉穂氏には資料の収集にご協力いただいた。京都大学総合博物館の藤原恭司博士には標本登録にご協力いただいた。厚く感謝申し上げる。



Fig. 1. Fresh specimen of *Rhinogobius mizunoi* collected from Kubota-gawa river, Osumi Peninsula, Kagoshima Prefecture, Japan; FAKU 212590, female, 62.4 mm SL, Photo: Y. Takada.



Fig. 2. Underwater photograph of *Rhinogobius mizunoi*, taken on August 26, 2025, in Kubota-gawa river, Osumi Peninsula, Kagoshima Prefecture, Japan, Photo: K. Kitao.

## 引用文献

- 赤池貴大・古橋龍星・是枝伶旺・本村浩之. 2020. 鹿児島県薩摩半島の鹿児島湾に注ぐ小河川から得られた準絶滅危惧種ルリヨシノボリ. *Nature of Kagoshima*, 46: 581–585.
- 明仁親王・林 公義・吉野哲夫・島田和彦・瀬能 宏・山本隆司. 1984. スズキ目ハゼ亜目, pp. 228–276. 益田一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編) 日本産魚類大図鑑. 東海大学出版会, 東京.
- 上原伸一. 1984. 東北地方におけるヨシノボリ 4 型の分布. 横須賀市博物館研究報告, 32: 33–49.
- 小熊進之介・木村将士. 2024. 茨城県初記録のルリヨシノボリ *Rhinogobius mizunoi*. *Niche life*, 12: 46–48.
- 平嶋健太郎. 2018. ヨシノボリ属, pp. 412–417. 中坊徹次 (編) 小学館の図鑑 Z 日本魚類館. 小学館, 東京.
- 鹿児島島の自然を記録する会 (編). 2002. 川の生き物図鑑 鹿児島の水辺から. 南方新社, 鹿児島. 386 + iv pp.
- 松沼瑞樹・本村浩之. 2013. 鹿児島市甲突川からのルリヨシノボリ *Rhinogobius* sp. CO (ハゼ科ヨシノボリ属) の記録. *Nature of Kagoshima*, 39: 63–65.
- 宮城県環境生活部自然保護課. 2024. 宮城県の希少な野生動植物 宮城県レッドリスト 2024 年版 (汽水・淡水魚類). <https://www.pref.miyagi.jp/documents/24174/kisui.pdf> (2026 年 1 月 16 日参照)
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. (<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>)
- Suzuki, T., K. Shibukawa, N. Oseko and M. Aizawa. 2017. *Rhinogobius mizunoi*, a new species of freshwater goby (Teleostei: Gobiidae) from Japan. *Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science)*, 46: 79–95.
- 米沢俊彦・四宮明彦. 2016. ルリヨシノボリ. p. 102. 鹿児島県環境林務部自然保護課 (編), 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 動物編. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 鹿児島.